

パネルディスカッション 登壇者紹介

モデレーター

門村 幸夜 プロファシリテーター



省庁や研究機関など各方面でのシンポジウム、フォーラム等でプロファシリテーターとして活動する。元NHK 生活情報番組リポーター・キャスター、ディレクター。元大阪大学・産学共創本部特任准教授。大阪大学においては産学共創による人材育成プロジェクトに加え、NHK との協同企画「白熱教室 in 大阪大学」招致、「大阪大学・京都大学・神戸大学連携シンポジウム」司会、「【緊急】シンポジウム『震災の今とこれから』」ファシリテーターなど多岐にわたり活動。文部科学省 NISTEP においても SciREX シンポジウム「イノベーション創出を支える博士人材の育成」リサーチ・司会など数多くのシンポジウムに携わる。

竹森 祐樹 株式会社日本政策投資銀行 イノベーション推進室長



長年、鉄鋼や重工、機械などの製造業に対する投融資を担当し、工場訪問は国内外で累計300カ所を越す。特に航空機産業の国際共同開発における日本企業の地位向上や、官需中心の宇宙分野に民間事業者が参画するための基盤作りなど、航空宇宙産業をライフワークとして取り組んでいる。2019年よりイノベーション推進室を率いて、人間の幸せに貢献する技術にこだわり、産総研やJAXA との組織間連携も活用しつつ、遠隔医療やエネルギー分野、空飛ぶクルマなど企業や組織を横断する取組に挑戦中。

岩波 越 国立研究開発法人防災科学技術研究所 研究主監



1991年北海道大学大学院にて博士号取得後、防災科研に入所。専門はレーダー気象学。JST「イノベーションハブ構築支援事業」において産学官の人材・情報・技術を糾合した「研究と人材の中核拠点」の構築に尽力、令和2年7月のイノベーション共創本部設立に貢献。戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）においては、開発されたMP-PAWRを用いた東京オリンピック会場等における雨量予測情報や、強風、雷情報を用いて、イベント運営者、自治体、市民を対象に実証実験を実施するとともに、「ソーチェク」の開発を行い、研究成果をユーザーニーズに合わせて加工した「情報プロダクト」の付加価値創出と利活用に関する連携体制の構築及び研究開発を推進。現在の役職は、防災科研の研究開発に係る業務を統括する研究主監。

松井 直之 国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 森林資源化学研究領域 チーム長（精油化学担当）



1991年に名古屋大学農学部を卒業後、引き続き同大学院農学研究科にて樹木を構成する主要な高分子であるリグニンの生合成について研究。修了後、日本学術振興会特別研究員(PD)を経て、1997年に林野庁森林総合研究所（当時）に入所。木材に含まれる抽出成分、特に精油成分の特性、機能等について幅広く研究を行う。専門は樹木化学。企業と協同して進めた「植物精油を利用した空気質改善剤の開発」にて平成30年科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞。企画部研究管理科産学官連携・知財戦略室長の兼務を経て、2022年4月より現職。名古屋大学博士（農学）。

三本 幸司 Hmcomm株式会社（産業技術総合研究所ベンチャー）代表取締役CEO



創業以来「音から価値を創出し、革新的サービスを提供することにより社会に貢献する」という理念のもと、国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）発のベンチャー企業として「音」に着目した研究・開発を行い、その成果の社会実装を目指している。人間の代替、人間以上の能力を発揮する人工知能が期待される中、Hmcommのような音特化のディープテックベンチャーは稀少であり、この分野においては他社の追従を許さないポジション確立に日々チャレンジしている。

吉井 幸恵 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 上席研究員 リンクメッド株式会社（量子科学技術研究開発機構ベンチャー） 代表取締役 CEO



筑波大学卒業。理学博士。量子科学技術研究開発機構（QST）にて10年以上、放射線を利用したがん治療薬の研究に従事。診断と治療を同時に行える「見える」がん治療薬を開発し、実用化を目指す。代表者としてAMEDやJSTから支援を得る。開発第一号64Cu-ATSMの第I相試験（国産放射性治療薬で初の臨床試験）が再発悪性脳腫瘍患者対象に国内医療機関で実施されている。2022年7月QST認定ベンチャー「リンクメッド株式会社」創業。

パネリスト